地域学習会　資料その2

～ 乳幼児からの手話の必要性 ～

なぜ、手話が必要なのか

乳幼児期から手話を使うことは、
どういう意味があるのか。

その前に、今の状況の確認しましょう。

医療とろう・難聴児

新生児聴覚スクリーニングで
お子さんに聴覚障害が判明！

…それから、そのお子さんは
どのように育つのでしょう？

医療とろう・難聴児

病院にて

聴覚障害ですね。
まずは補聴器を付けましょう。
重度の場合は、人工内耳の手術で
聞こえが良くなりますよ！

医療とろう・難聴児

病院にて

あ…はい。
うちの子、聞こえるようになるんでしょうか？
何をすれば良いのでしょう？

医療とろう・難聴児

病院にて

まずは静かな環境をつくって、声をしっかり聞こえるようにしましょう。話しかけるときは、顔をまっすぐに向けて話しかけてください。

医療とろう・難聴児

病院にて

あ、それとお母さん。
手話は使わないで行きましょう。
音に集中させないと、言葉や発音の育ちが遅れますよ。

医療とろう・難聴児

もし自分が病院で
「子どものために手話を使わないで」
と言われたら。

自分が保護者ならどうします？

医療とろう・難聴児

赤ちゃんの言葉の発達は普通、
早く言葉の刺激を与えた方が成長する
のが基本です。

人工内耳は、手術が早くても1歳過ぎ。
実際に使えるのは、手術の数ヶ月後。

医療とろう・難聴児

手話は、早ければ生後数ヶ月から。
１歳前に手を動かしてやりとりもできます。

早く言葉の刺激を与えた方が成長する
のだから、

ろう・難聴児には手話が先なのでは？

医療とろう・難聴児

聞こえる子もベビーサインを使うと
「お互いに気持ちが伝わって安定した」
という報告が多くあります。

親子関係は、まず「聞こえるか」より、
「気持ちが伝わったか」を重視した
方が良いのではないでしょうか

医療とろう・難聴児

医療関係の方は、手話を教えると、

・人工内耳で聞く習慣がつかない

・音に注意できない

と思っているのかも知れません。

しかし…

乳幼児期の手話否定は正しい？

・アメリカの研究

「乳幼児期からアメリカ手話(ASL)を使っていた人工内耳の子の言語力は、ASLを使わなかった人工内耳の子より高い」というデーターがある。

→人工内耳を付けていても、手話は効果的！

医療とろう・難聴児

手話を使うかどうかを**選択するのは、家族**であるべきです。

保護者に最初に接する医療の方は、**平等な情報提供**ができているでしょうか？

（実際に、地域の保護者の話を聞いてみよう！）

では、どんな環境が整えば良い？

1. 医療機関で手話使用を肯定的に指導

- 乳幼児期から手話を学べる選択肢がある環境
- 保護者が「音も手話も大事」と言える環境

2. 小中学校に固定制難聴学級を設置

- 小学校に「手話・指文字がある」から安心して学べる
- 子どもの集団に入れる！！→ 社会性が伸びる
- 普通学級⇔難聴学級⇔聾学校の選択がスムーズに

今回の感想を書いてみよう！